

線に通らずして隔ありて、斑點の形をなせば、錦邊とはいひ難し、斑蓮の類なるべし。

〔昆陽漫錄〕十二時蓮。

江州野州郡田中村名主田中源兵衛が家に十二蓮あり、慈覺入唐の時に持ち渡り植うと云ひ傳ふ、近頃乾たる十二時蓮を観るに、一房に五六花ありて、白蓮と見ゆ、實は無しと云ふ、世には色々珍らしきものあるものなり、十二時の義は知るべからず。

〔古今要覽稿 草木〕芍藥蓮。湘妃蓮。

芍藥蓮二種ありて、外葩は大にして中の花瓣小にして、芍藥のごとし、白芍藥と呼ぶは白し、又瓣の先紅暈にして、紅條の鮮なるあり、今の人多く植て愛玩なせども、是も諸書に載せず、又湘妃蓮と呼ぶも、白の芍藥蓮のごとくにして、外の葩黄を帯べり、此湘妃蓮といへるも、諸書に見えず、今花戸にまゝあり、是等本唐蓮の種なるべし、大和本草に近年世上に唐蓮多く植ゑ、品多しといへる、遺種なるべし。

〔古今要覽稿 草木〕雙頭蓮。○中略。

雙頭蓮、一名合歡蓮、一名嘉蓮、一名同心蓮とも、時珍は雙頭蓮、一名催生草、主婦人難産、左手把之即生といへり、秘傳花鏡に、並頭蓮、紅白俱有、一幹兩花といひ、又顧仲方百詠にも、並蒂黃荷花と云て、圖を載せ詩もあり、雙頭並蒂ともに同じ、古は一莖二花、一莖二萼を奇といひて稱せしなり、又詩に詠せしは、梁の朱超が詠同心芙蓉といふ、五言古詩あり、又劉商が詠雙開蓮花といふ、七言絶句あり、又韋莊が合歡蓮花の七言絶句あり、雙頭蓮何處にも蓮の多く生ずる中には、極めて雙頭も生ずべけれども、遙にみては見えざるべし、偶目前に見る故、奇としてめづれども、みえずしてしらざる者あるべし、近比田安家庭池に、雙頭蓮二三花生せしと聞り、昨年も武藏國足立郡草加在百姓の田中に多く蓮を植しに、雙頭の蓮三本生せしとある人いひし故、共に行て見るに、一本は